

ひと

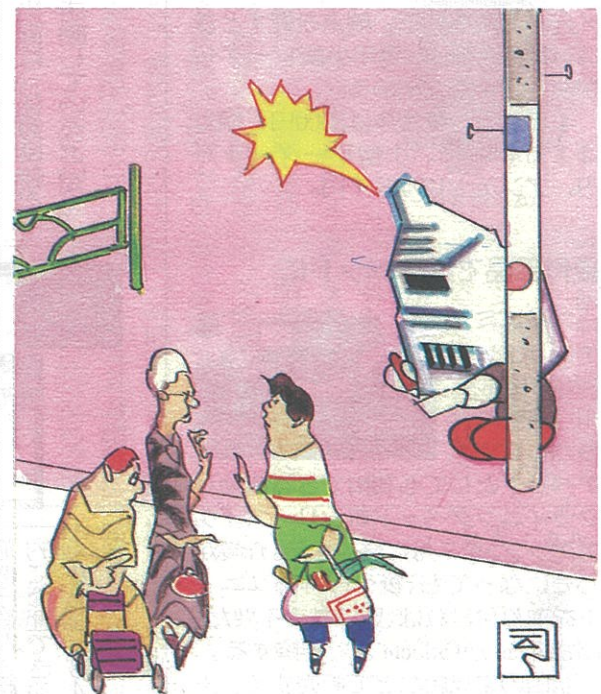


地域居住、アジアで高評価

舞浜倶楽部社長 **グスタフ・ストランデルさん**

新浦安駅から徒歩十数分、閑静な住宅街に突如、日本とスウェーデンの国旗がはためく3階建てのしゃれた洋館が現れる。舞浜倶楽部（グスタフ・ストランデル社長）が運営する介護付きホームの新浦安フォーラムだ。4月26日にシンガポールで行われた、第5回アジア・太平洋地域最大の高齢者ケア・イノベーション・アワードで、14カ国・約200社の応募事例の中から、エイジング・イン・プレイス部門の最優秀賞を獲得した。住み慣れた地域で最期まで、自分らしく暮らせる環境を整えたことが評価されたようだ。

2009年の開設以来、認知症になっても安心して暮らせる社会づくりに力を入れてきた。外来と訪問診療を行う24時間体制のクリニックや認知症デイ、小規模多機能、ケアマネ事業所などを併設し、地域での暮らしを支えている。近隣の学校や集会所での認知症サポーター養成講座や市内初の見守り訓練、認知症カフェでの家族支援、認知症初期集中支援チームによる早期支援など、地域全体で認知症への理解を深めている。「地域貢献は民間企業の社会的責任（CSR）」とグスタフ社長。行政や医師会とも積極的に連携する動きは、地域包括ケアシステムそのもの。昨年末に見学に来たシンガポール人に勧められるまま、アワードに初エントリー。当日はスウェーデン出身のグスタフ社長が英語でプレゼンテーションした。日本語は堪能だが、実は英語が苦手。「不慣れた英語でのプレゼンに緊張しましたが、入居者や家族、職員、自治体、地域の皆さんと一緒に作り上げてきた。自信はありました」と、受賞の喜びを噛みしめる。



忍びよる共謀罪、立ち話しもご用心
画・西澤勇司

特集

在宅でもロボット介護

環境新聞社 シルバー新報販売部
TEL.03-3359-5371 FAX.03-3351-1939

【未来予測】10年後にはこれが常識？

ルポ モニタリングはセンサーにお任せ／AIでケアプラン作成／テレビ電話でいつでも“往診”／介護予防もスマホでOK

ロボットは開発から普及のフェーズに

